

古今紀要卷三

龜田



龜山帝ニ
受ク
朝鮮鄰好
ヲ修ム

校古今紀要卷三

重野成齋閱

川島楳野編



後小松天皇ハ後圓融帝ノ長子ナリ。神寶

山帝ニ受ケ。位ニ即ク。○明德三年。十二月。朝鮮使

ヲ遣シ。鄰好ヲ修メント請フ。之ヲ許ス。○是月前

管領細川頼之卒ス。頼之義滿ヲ輔翼シ。外戰伐ヲ

務メ。内士風ヲ正ス。足利氏ノ業頼リテ以テ固シ

○四年。四月。後圓融上皇崩ス。○應永元年。十二月。

足利義滿奏請シテ。征夷大將軍ヲ其子義持ニ讓

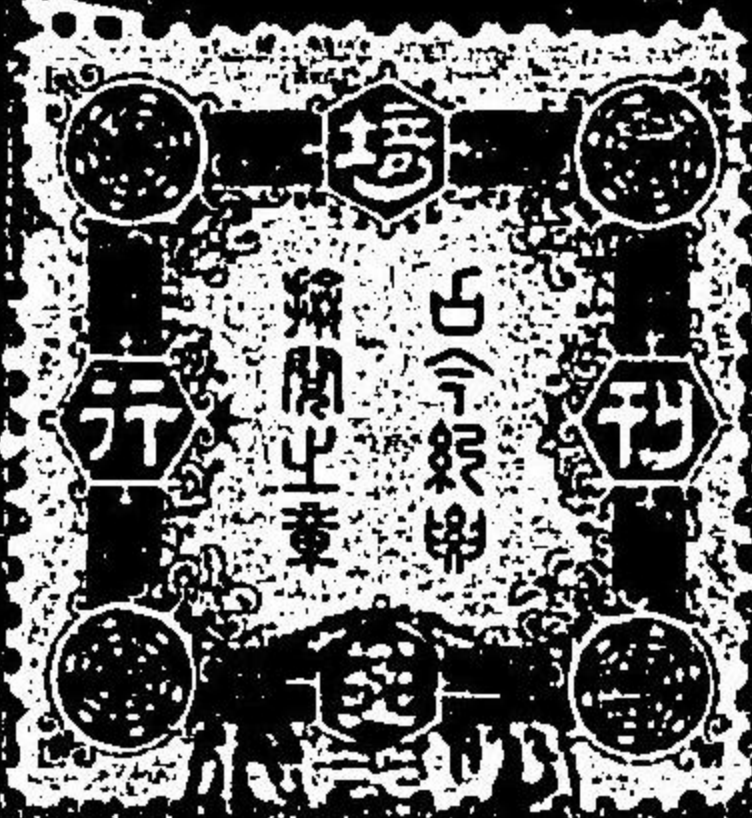
リ。自太政大臣ト為ル。○五年。正月。崇光上皇崩ス

古今紀要卷三 後小松



川島
重野成齋

古今紀要

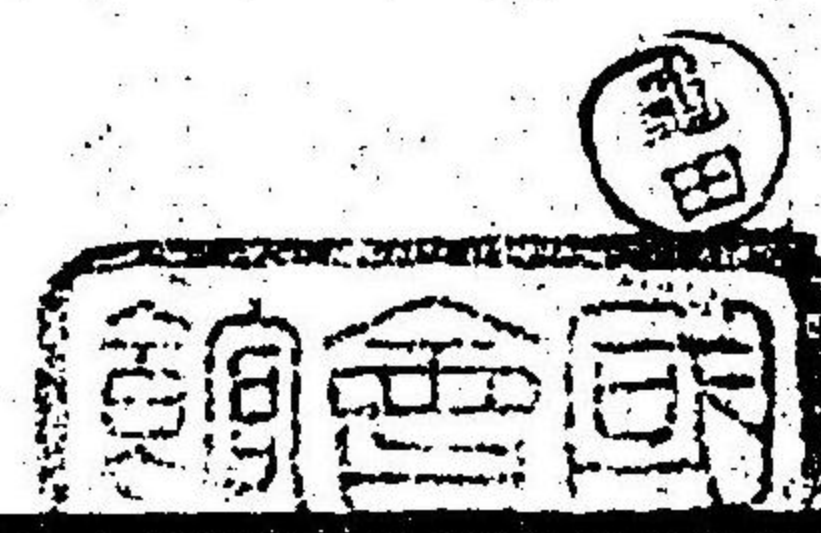


210271

校古今紀要卷三

重野成齋閱

川島棋平編



龜山帝ニ
受ク
朝鮮鄰好
ヲ修ム

後小松天皇ハ、後圓融帝ノ長子ナリ。神寶
山帝ニ受ケ。位ニ即ク。○明德三年。十二月。朝鮮使
ヲ遣シ。鄰好ヲ修メント請フ。之ヲ許ス。○是月前
管領細川頼之卒ス。頼之義満ヲ輔翼シ。外戰伐ヲ
務メ。内士風ヲ正ス。足利氏ノ業頼リテ以テ固シ
○四年。四月。後圓融上皇崩ス。○應永元年。十二月。
足利義満奏請シテ。征夷大將軍ヲ其子義持ニ讓
リ。自太政大臣ト為ル。○五年。正月。崇光上皇崩ス。

古今紀要卷三

義弘叛ス

○十一月。鎌倉管領足利氏滿卒ス。其子滿兼嗣シ。○六年。十月。大内義弘叛シ。坂浦ニ據ル。土岐詮直。山名時清等之ニ應シ。滿兼亦遙ニ聲援ヲ為ス。義滿大兵ヲ發シ。義弘ヲ攻ム。義弘自殺シ。詮直等皆平ク。義滿乃滿兼ヲ討タント欲ス。滿兼和ヲ請ヒテ止ム。○八年。五月。義滿好ヲ明ニ通ス。是ヨリ信使往來絶エス。○九年。明主朱允炆信使ヲ遣シ。義滿ヲ封シテ。日本國王ト為ス。○十年。明ノ船舶銅錢ヲ載セテ。相摸ニ漂着ス。滿兼其錢ヲ收メテ之ヲ關東ニ行フ。永樂錢是ナリ。○十五年。三月。天皇

義滿明主ノ封ヲ受ク

金閣寺

義滿ノ北山第ニ幸ク。○五月。前太政大臣義滿薨ス。義滿屢叛亂ヲ平ケ。威武ヲ振張ス。政ヲ執ル四十年。其驕恣僭越。尊氏ニ踰ユ。嘗テ別業ヲ北山ニ起シ。奢靡ヲ窮極ス。金閣寺是ナリ。○十六年。七月。鎌倉管領足利滿兼卒ス。其子持氏嗣ク。○十九年。八月。天皇位ヲ躬仁親王ニ傳フ。在位二十九年。躬仁親王立ツ。稱光天皇ハ。後小松帝ノ長子ナリ。○南朝ノ遺臣。兩統更立ノ約ニ背クヲ憤リ。所在兵ヲ起ス。尋キテ平ク。○二十三年。七月。足利持氏其執事上杉氏

持氏氏憲
ヲ罷ム

義持義嗣
ヲ殺ス

氏憲亂
作ス

憲ヲ罷メ。上杉憲基ヲ以テ之ニ代フ。氏憲ハ憲房ノ後世。山内ニ居リ。憲基ハ憲房ノ兄憲顯ノ後世。窮谷ニ居ル。而上杉ト稱シ。更執事タリ。持氏氏憲ト隙アリ。故ニ其權ヲ奪フ。○十月。氏憲亂ヲ作シ。持氏ヲ攻ム。持氏駿河ニ奔リ。憲基越後ニ奔ル。氏憲持氏ノ弟持仲ヲ奉シテ之ヲ立ツ。○十二月。足利義持山名時熙ニ命シ。持氏ヲ救ハシム。又今川範政ニ命シ。持氏ヲ鎌倉ニ納レシム。明年。諸軍大ニ氏憲ヲ破ル。氏憲持中等自盡ス。○二十五年。正月。義持其弟義嗣ヲ殺ス。初義滿義嗣ヲ鍾愛シ。嗣

高麗對馬
ニ寇ス

ト爲サント欲ス。累遷シテ大納言ニ至ル。義滿薨スルニ及ヒテ勢ヲ失ヒ。快々トシテ樂マス。既ニシテ鎌倉ノ事起リ。氏憲ト謀ヲ通ス。事泄ル。義持之ヲ林光院ニ幽ス。是ニ至リテ殺サル。○二十六年。六月。高麗ノ戦艦對馬ニ寇ス。撃チテ之ヲ却ク。○二十九年。七月。後龜山上皇崩ス。○三十年。三月。征夷大將軍義持職ヲ辭ス。其子義量嗣ク。幾モ亡ク義量薨ス。義持再起チテ事ヲ視ル。○五月。足利持氏小栗滿重ヲ常陸ニ攻ム。滿重敗レテ參河ニ走リ。其子助重相模ニ走ル。○正長元年。正月。前征

滿家關ヲ探ル

夷大將軍義持薨ス。管領畠山滿家神闌ヲ石清水社ニ探リ。義持ノ弟僧義圓ヲ立テ。名ヲ義教ト改ム。尋キテ征夷大將軍ト為ル。○七月。天皇崩ス。在位十五年。皇弟彥仁親王立ツ。

滿雅兵ヲ起ス

後花園天皇ハ。崇光帝ノ曾孫ナリ。稱光帝嗣ナシ。後小松上皇養ヒテ子ト為ス。○八月。伊勢國司北畠滿雅兵ヲ起ス。尋キテ平ク。初後龜山上皇子アリ。小倉宮ト曰フ。兩統更立ノ舊約アルヲ以テ。已統ヲ承ケント欲シ。竊ニ謀ヲ滿雅ニ通ス。是ニ至リ。滿雅兵ヲ起ス。義教土岐持頼ニ命シ。擊チテ之

義教駿河ニ遊フ

日吉神輿

ヲ殺サシム。小倉宮來リ降ル。之ヲ嵯峨ニ置ク。○永亨元年。九月。楠光正義教ヲ狙撃センコトヲ圖濟ラスシテ殺サル。○四年。九月。義教駿河ニ遊ヒ。富士山ヲ觀ル。實ハ鑊倉ヲ伺察スルナリ。○五年。六月。延曆寺ノ僧徒。日吉神輿ヲ奉シテ。京師ニ入リ事ヲ訴フ。義教諸將ヲシテ之ヲ拒カシム。○十月。後小松法皇崩ス。○六年。六月。明主朱瞻基信使ヲ遣シ。銅錢三十萬貫ヲ義教ニ贈ル。○九年。十月。天皇義教ノ第二幸シ。留ル六日。○十年。九月。鑊倉管領足利持氏ヲ執フ。初義持持氏ヲ嗣ト為サ

持氏ヲ執

ント約ス。義教ノ立ツニ及ヒ。持氏意平ナル能ハ
 ス。常ニ之ヲ輕シテ還俗將軍ト曰フ。執事上杉憲
 實之ヲ諫ム。聽カス。遂ニ與ニ隙アリ。持氏憲實ヲ
 逐フ。憲實之ヲ京師ニ訴フ。義教兵ヲ發シ。憲實ヲ
 援ケテ。持氏ヲ攻ム。持氏戰敗ル。憲實之ヲ永安寺
 ニ囚フ。明年逼リテ自殺セシム。○十一年。二月。義
 教憲實ヲ以テ鎌倉管領ト爲ス。憲實固辭シ。弟清
 方ヲシテ其職ヲ襲カシム。○十二年。正月。結城氏
 朝持氏ノ遺孤二人ヲ奉シテ。兵ヲ下總ニ起ス。義
 教憲實ヲシテ之ヲ伐タシム。○嘉吉元年。四月。憲

義教持氏
 ヲ殺ス

氏朝兵ヲ
 起ス

實諸軍ヲ督シテ。結城城ヲ攻ム。會暴風。城中火起
 ル。諸軍之ニ乘シテ奮擊ス。氏朝舉族之ニ死ス。遺
 孤亦執ヘラル。義教之ヲ殺ス。○三月。義教其弟僧
 義昭ヲ殺ス。初義昭小倉宮ニ勸メ兵ヲ舉ケシム。
 事覺ル。ニ及ヒ。出テ、薩摩ニ走ル。島津忠國人
 ヲシテ之ヲ襲ハシム。義昭自殺ス。○六月。赤松滿
 祐子教康ト其君義教ヲ弑ス。初赤松則村戰功ヲ
 リ。子孫大國ヲ食ム。滿祐ニ至リ。義教其族貞村ヲ
 寵シ。滿祐ヲ抑ヘ。又其邑ヲ割キテ。貞村ニ與ヘン
 ト欲ス。滿祐怨ヲ積ミ。義教ヲ教康ノ第二饗シテ

氏朝戰死
 ス

滿祐義教
 ヲ弑ス

古今紀要卷三 後花園

之ヲ弑シ。其邑播磨ニ走リ。足利直冬ノ孫義尊ヲ
 擁シテ兵ヲ聚ム。時ニ義教ノ子義勝甫メテ八歳。
 嘉吉ノ後管領細川持之ヲ擁立ス。○八月。細川持之ニ勅
 シ。滿祐父子ヲ討タレム。九月。山名持豐等進ミテ
 白旗城ヲ攻メ。滿祐ヲ誅ス。教康伊勢ニ逃ル。國司
 北畠持康執ヘテ之ヲ誅ス。○二年。十月。管領畠山
 持國。畠山ヲ府中ニ置キ。諸國ノ訴訟ヲ受ケ。評定
 衆ト共ニ之ヲ判決ス。人以テ便ト爲ス。○十一月。
 足利義勝征夷大將軍ト爲ル。幾ナラスシテ薨ス。
 其弟義政嗣ク。○三年。五月。高麗來聘ス。○九月。前

持豐滿祐ヲ誅ス

畠山ヲ府中ニ置キ

中興宮神寶ヲ奪フ

朝鮮ト互市ヲ約ス

大納言藤原有光等亂ヲ作ス。初有光楠正員等ト。
 南朝ノ皇族ヲ奉レ。中興宮ト稱シ。夜禁中ニ入り。
 火ヲ縱チテ殺畧シ。遂ニ神寶ヲ奪ヒ。延曆寺ニ據
 ル。乃兵ヲ遣リ之ヲ討チ。神鏡寶劔ヲ獲タリ。○是
 歲。對馬島主宗貞盛朝鮮ト互市ヲ約ス。是ヨリ商
 舶往來絶エス。○文安二年。十一月。細川勝元管領
 ト爲ル。○寶徳元年。正月。足利義政足利持氏ノ季
 子成氏ヲ以テ。鎌倉管領ト爲ス。是ヨリ先成氏拘
 ヘラレテ京師ニ在リ。關東ノ將士成氏ヲ立テ、
 主ト爲サント請フ。義政之ニ從ヒ。上杉憲忠ヲ以

テ執事ト爲ス。憲忠ハ憲實ノ子ナリ。○四年六月。平均徳政初足利義勝平均徳政ト稱シ。士民ヲシテ負債ヲ辨セサラシム。是ニ至リ。姦民亂ヲ作ス。撃チテ之ヲ平ク。○享徳三年十一月。成氏憲忠ヲ殺ス。義政今川範忠ヲシテ成氏ヲ伐タシム。成氏古河ニ奔ル。○康正元年正月。成氏憲忠ノ餘黨ヲ伐チテ。武藏ニ至リ。上杉憲秋上杉顯房ト戦ヒ之ヲ斬ル。上杉房顯散卒ヲ收メ。常陸ノ小栗城ヲ保ツ。房顯ハ憲忠ノ弟ナリ。○五月。義政赤松則尚ヲ以テ播磨守護ト爲ス。山名持豊攻メテ之ヲ殺ス。初嘉吉ノ

成氏古河ニ奔ル

持豊則尚ヲ殺ス

役持豊衆ニ先チテ進ミ。遂ニ播磨ヲ得タリ。是ニ至リ。則尚守護ト爲ル。持豊怒ル。故ニ是ニ及フ。○長祿元年六月。義政澁川義鏡ヲ以テ關東探題ト爲シ。諸將ヲシテ其節度ヲ受ケシメ。上杉房顯ヲ鎌倉管領ト爲シ。以テ成氏ヲ伐タシム。○十二月。是ヨリ先關東大ニ亂ル。義鏡等主帥ヲ得テ之ヲ鎮セント請フ。是ニ至リ。義政其弟政知ヲ遣リ。伊豆ニ居ラシメ。堀越御所ト稱ス。○二年八月。神皇朝ニ還ル。初赤松氏ノ遺臣功ヲ立テ罪ヲ贖ハン

關東大ニ亂ル

神皇朝ニ還ル

子ヲ殺シ。神璽ヲ獲テ還ル。○寛正四年。四月初。畠山持國子ナシ。姪政長ヲ養ヒテ嗣ト爲ス。既ニシテ義就ヲ生ミ。稍政長ヲ疎ニス。政長出テ、細川勝元ニ依ル。勝元山名持豊ト之ニ黨ス。持國乃政長ヲシテ家ヲ繼カシム。義就河内ニ奔リ。岳山ニ據ル。勝元政長ヲ援ケ。之ヲ圍ム數年。是ニ至リ岳山陷ル。義就逃レテ高野ニ入ル。○五年。七月。天皇位ヲ成仁親王ニ傳フ。在位三十六年。成仁親王立ツ。後土御門天皇ハ。後花園帝ノ子ナリ。○文正元年

岳山陷ル

成氏房顯ト相持ス

正月。足利成氏兵ヲ武藏ノ五十子ニ出シテ。上杉房顯ト相持ス。二月。房顯軍ニ卒ス。足利政知上杉房定ノ子顯定ヲ召シ。房顯ノ嗣ト爲ス。○應仁元年。京師大ニ亂ル。初足利義政。其弟義視ヲ立テ、嗣ト爲ス。誓ヒテ曰ク。吾若男アラハ。必僧ト爲サント。管領細川勝元ニ命シテ之ヲ輔ケシム。既ニシテ義尚ヲ生ム。其母富子僧ト爲スニ忍ヒス。密ニ山名宗全ニ託ス。宗全ハ即持豊ナリ。勝元嘗テ宗全ノ子ヲ養ヒ嗣ト爲ス。其子ヲ生ムニ及ヒテ之ヲ廢ス。宗全憚ハス。乃義就ノ勝元ト相仇スル

義尚ヲ宗全ニ託ス

後土御門

ヲ以テ。義政ニ請ヒ之ヲ赦シ。以テ已カ授ト爲ス。是ニ至リ。義就政長ト京師ニ戰フ。義政諸將ヲ諭シ。相援クルユト無ラシム。宗全竊ニ義就ヲ援テ。擊チテ政長ヲ走ラス。既ニシテ勝元大ニ兵ヲ集メ。政長ヲ援ケテ幕府ノ東ニ陣ス。十六萬ト稱ス。宗全亦兵ヲ集メ。義就ヲ援ケテ其西ニ陣ス。十一萬ト號ス。戰鬪殆虚日トシ。勝元幕府ニ入リ。義政ヲ擁シ。又天皇及上皇ヲ迎フ。○二年。九月。流言アリ。勝元義政ヲ廢シテ。義視ヲ立テシユトヲ謀ルト。勝元之ヲ患ヒ義視ヲシテ叡山ニ入ラシム。案

戰鬪虚日ナレ

葬儀備ハラス

全乃兵ヲ遣リ。迎ヘテ其軍ニ入ル。○文明二年。十二月。後花園上皇室町殿ニ崩ス。明年。正月。悲田寺ニ葬ル。葬儀備ハラス。義政徒步シテ之ニ從フ。○三年。三月。足利成氏兵ヲ出レテ政知ヲ攻ム。政知三島ニ迎ヘ戰フ。克タス。會上杉政真兵ヲ遣リテ。政知ヲ援フ。成氏敗走ス。○六月。上杉顯定攻メテ古河城ヲ拔キ。成氏ヲ走ラス。○四年。十一月。成氏政真ヲ五十子ニ破リ之ヲ斬ル。○五年。三月。山名宗全卒ス。五月。細川勝元亦卒ス。二人京師ニ在リ。兵連リテ解ケス。其黨ノ國ニ在ル者。亦各兵ヲ交

顯定古河ヲ拔ク

宗全勝元相率キテ

九年ノ冬ニ至リ。西軍悉解ケテ國ニ歸ル。土岐成賴義視ヲ奉シテ。美濃ニ走ル。東軍亦散ス。應仁以後十一年間。京師兵馬ノ區ト爲リ。登朝ノ典籍。文武ノ邸宅。盡灰燼ト爲ル。○十二月。征夷大將軍足利義政致仕ス。其子義尚嗣ク。義尚後義熙ト改ム。○七年。八月。義政使ヲ明ニ遣リ。典籍及銅錢ヲ求ム。○十年。七月。足利成氏古河城ヲ復ス。時ニ上杉顯定上野ノ平井ニ居リ。上杉定正相模ノ大場ニ在リ。各兵ヲ構フ。○八月。義政義視ト成ク。○十一年。八月。義熙成氏ト成ク。○十八年。七月。上杉定

應仁ノ亂始ノテ平ク

成氏古河ヲ復ス

定正持資ヲ殺ス

正其執事太田持資ヲ殺ス。持資才畧人ニ過絶ス。嘗テ河越江戸二城ヲ築キテ。八州ヲ招集シ。深ク將士ノ心ヲ得タリ。上杉顯定及間ヲ縱チ。定正ヲシテ之ヲ殺サシム。是ニ至リ。將士多ク定正ニ叛ク。○長亨元年。九月。足利義熙六角定賴ヲ近江ニ討ツ。定賴甲賀山ニ匿ル。義熙進ミテ鈎里ニ軍ス。○延徳元年。三月。征夷大將軍義熙薨ス。義熙學ヲ好ミ。常ニ撥亂ノ志アリ。軍中ニ在リテ。猶左氏春秋ヲ講ス。薨スルニ及ヒ。人皆哀惜ス。子ナシ。義政義視ヲ召シ還シ。其子義植ヲ養ヒ嗣ト爲ス。○二

義熙學ヲ好ム

銀閣寺

年正月。前征夷大將軍義政薨ス。義政奢ヲ極メ政ヲ恤ヘス。嘗テ第ヲ東山ニ造リ。銀閣ヲ起シ。以テ

金閣ニ擬シ。常ニ茗譙ヲ以テ娛ト爲シ。遂ニ天下

政知弒セラル

ノ大亂ヲ招ク。○四月。足利政知其子茶茶丸ニ弒セラル。政知ノ次子義遐。駿河ニ奔リテ。今川氏親

ニ依ル。氏親之ヲ京師ニ送ル。○明應二年。二月。畠

山義豐河内ニ在リ。畠山政長ト兵ヲ構フ。義植自

將トシテ義豐ヲ討ツ。細川政元政長ト相惡ム。因

義植長門ニ奔ル

リテ義豐ヲ援ク。政長軍潰エ。自殺ス。義植長門ニ奔リ。大内義興ニ依ル。政元乃義遐ヲ迎ヘテ之ヲ

立ツ。○三年。十二月。義遐ヲ以テ征夷大將軍ト爲

ス。後名ヲ義澄ト改ム。○四年。二月。北條長氏大森

實頼ヲ小田原ニ襲ヒ。其城ヲ取り。子氏綱ヲシテ

之ニ居ラシム。長氏ハ伊勢ノ人。豪邁ニシテ大志

アリ。是ヨリ先。其徒七人ト。劔ニ仗リテ東游シ。今

川氏ニ寓ス。足利茶茶丸其父ヲ弒スルニ及ヒテ。

長氏相模ヲ畧ス

兵ヲ擧ケテ之ヲ誅シ。伊豆ヲ取り。遂ニ相模ヲ畧

ス。兵威大ニ振フ。○六年。九月。足利成氏古河ニ卒

ス。子政氏嗣ク。○九年。九月。天皇崩ス。在位三十六年。勝仁親王立ツ。

澄之其父ヲ弑ス

義興義植ヲ奉シ京ニ入ル

後柏原天皇ハ。後土御門帝ノ長子ナリ。○文龜元年。二月。義澄奏シテ義植ノ官爵ヲ削ル。○永正四年。六月。細川澄之其父政元ヲ弑ス。初政元澄之ヲ養ヒテ子ト爲シ。後又高國及澄元ヲ養フ。三好之長澄元ニ傳タリ。香西元近等謂ヒテ曰ク。澄元家ヲ承ケハ。之長權ヲ專ニセント。遂ニ澄之ト謀リテ逆ヲ行フ。○七月。之長阿波ノ兵ヲ以テ京師ニ入リ。元近ヲ誅レ。澄元ヲ立テ、管領ト爲サント請フ。義澄之ニ從フ。○五年。二月。大内義興足利義植ヲ奉シ。大舉シテ京師ニ入ル。細川高國之ニ應

遠江海溢

ス。義澄澄元近江ニ奔ル。高國自管領ト爲ル。○七月。義植再征夷大將軍ト爲リ。奏シテ義澄ノ官爵ヲ削ル。○六年。七月。上杉顯定兵ヲ率キ。長尾爲景ヲ越後ニ擊チ之ヲ走ラス。○七年。七月。顯定爲景ヲ擊チテ敗死ス。其子憲房走リテ白井城ヲ保ツ。○八月。地大ニ震フ。遠江海溢レ。陸地没レテ海ト爲ル。○八年。八月。赤松義村細川政賢等兵ヲ擧ケ。京師ニ入ル。義興義植ヲ奉シテ丹波ニ奔ル。既ニシテ義興政賢ヲ襲殺ス。義植京師ニ還ル。乃義興ヲ以テ管領ト爲ス。是月。義澄薨ス。○九年。八月。北

條長氏三浦義同ヲ岡崎ニ攻ム。義同走リテ住吉
城ヲ保ツ。長氏又攻メテ之ヲ拔ク。義同退キテ荒
井城ヲ保ツ。上杉朝興來リ援ク。長氏邀ヘ撃チテ
之ヲ走ラス。○十三年七月。長氏荒井城ヲ拔ク。義
同奮戦シテ死ス。○十五年五月。蝦夷亂ル。蠣崎光
廣討チテ之ヲ平ク。初光廣ノ父武田信廣始メテ
松前ニ至ル。會蝦夷蜂起ス。信廣之ヲ討チテ功
アリ。上國城主蠣崎某女ヲ以テ之ニ妻ス。因リテ蠣
崎氏ヲ冒シ。徙リテ松前ニ治ス。○八月。管領大内
義興職ヲ辭シテ國ニ就ク。義興京師ニ在ル十一

光廣蝦夷
ヲ平ク

義興政ヲ
為ス公平

年。政ヲ為ス公平。衆皆悦服ス。會出雲守護尼子經
久周防ヲ侵サント謀ル。是ニ至リ國ニ還リ。軍事
ヲ經畧ス。○十七年二月。三好之長細川澄元ヲ擁
シテ。京師ニ入り。管領細川高國ヲ攻ム。義植高國
近江ニ奔リ。六角定頼ニ依ル。五月。定頼高國兵ヲ
合セ京師ニ入ル。之長敗死シ。澄元阿波ニ奔ル。義
植復京師ニ還ル。○大永元年三月。天皇即位。禮
ヲ行フ。本願寺其資ヲ獻シ。禮ヲ舉クルヲ得タリ
○是月。高國其君義植ヲ逐フ。義植淡路ニ奔リ。後
阿波ニ薨ス。○六月。高國足利義澄ノ子義晴ヲ播

本願寺即
位ノ資ヲ
獻ス

後柏原

氏綱江戸城ヲ攻ム

磨ニ迎ヘ之ヲ立ツ。七月。征夷大將軍ニ任ス。○四年。正月。北條氏綱武藏ニ入り。上杉朝興ヲ江戸城ニ攻ム。朝興其子朝定ト走リ河越城ヲ保ツ。氏綱戍兵ヲ江戸城ニ置キテ還ル。氏綱ハ長氏ノ子ニシテ勇略アリ。善ク兵ヲ用ウ。○六年。四月。天皇崩ス。在位二十六年。知仁親王立ツ。

亮政泰貞ヲ滅ス

後奈良天皇ハ。後柏原帝ノ第一子ナリ。○六年。九月。近江守護京極高岑其臣淺井亮政ヲ討ツ。初亮政高岑ノ宰上阪泰貞ノ專横ヲ惡ク。兵ヲ起シテ之ヲ滅シ。小谷ニ城キテ之ニ居ル。是ニ至リ。高岑

元長京師ニ入ル

亮政ヲ討ツ。亮政援ヲ越前守護朝倉教景ニ請ヒテ高岑ヲ破ル。京極氏遂ニ衰フ。○七年。二月。是ヨリ先。細川高國讒ヲ信シ。其臣香西光重ヲ殺ス。光重ノ弟柳本賢治等京師ヲ侵ス。義晴高國近江ニ奔ル。初義澄其次子義維ヲ細川晴元ニ託ス。是ニ至リ。晴元義維ヲ奉レテ。兵ヲ阿波ニ起ス。三好元長亦之ニ應シ。共ニ京師ニ入ル。○十月。近江守護六角定頼朝倉教景等ト義晴ヲ京師ニ納レ。明年。正月。元長ト和ス。既ニシテ和敗ル。義晴復近江ニ奔リ。高國伊勢ニ走ル。○亨祿四年。六月。晴元高國

晴元高國ト戦フ

政長元長
ヲ讒ス

ト。天王寺ニ戦ヒ。大ニ之ヲ破ル。高國浦上村宗ニ依リ。兵ヲ攝津ニ出シテ。晴元ニ逼ル。赤松晴政晴元ニ應シテ。高國ヲ攻ム。高國敗死ス。○天文元年。六月。晴元三好政長ノ讒ヲ信シ。家宰三好元長ヲ殺ス。○八月。晴元本願寺ノ僧光教ト。攝津ニ戦フ。法華宗ノ徒晴元ヲ援ケ。撃チテ光教ヲ破ル。初光教ノ遠祖親鸞。建久中。浄土真宗ヲ創メ。妻ヲ蓄ヘ肉ヲ食フ。光教ニ至リ。門徒極メテ多ク。遂ニ州郡ニ割據シ。武門ト抗衡ス。○二年。二月。光教復攝津ニ起リ。晴元ヲ攻ム。晴元淡路ニ奔リ。四月。堺ニ還

親鸞真宗
ヲ創ム

義隆即位
ノ資ヲ獻ス

リ。池田城ニ據ル。光教大坂城ヲ保ツ。○五年。二月。天皇即位ノ禮ヲ行フ。大内義隆其資ヲ獻ス。五月。義隆入朝ス。詔シテ太宰大貳兼防長豊筑守護ト爲シ。山陽鎮西ノ事ヲ領セシム。義隆ハ義興ノ子ナリ。○十二月。武田信虎信濃ニ入リ。海野口城ヲ攻ム。城堅クシテ拔ケス。信虎圍ヲ解キテ去ル。其子晴信請ヒテ殿シ。急ニ襲ヒテ之ヲ取り。戌ヲ置キテ還ル。○六年。七月。北條氏綱上杉朝定ヲ河越城ニ攻ム。城陷ル。朝定走リテ松山城ヲ保ツ。○七年。三月。武田晴信其父信虎ヲ逐ヒ自立ス。○九年。

晴信其父
ヲ逐フ

義隆元就
ヲ援フ

九月。出雲守護尼子晴久毛利元就ヲ安藝ニ攻ム。
十二月。大内義隆其將陶晴賢ヲ遣リテ。元就ヲ援
ハシム。元就ハ大江廣元ノ裔ニシテ。吉田城ニ居
リ。晴久ニ屬シ。後大内氏ニ附ク。○十年。五月。義隆
安藝守護武田信實ヲ攻メテ之ヲ斬ル。備前備中
皆義隆ニ降ル。○十二年。八月。葡萄牙人多樹島ニ
來リ。互市ヲ求ム。是時。始メテ鳥銃ヲ傳フ。邪蘇教
ノ入ル。亦此時ニ在リ。○十月。上杉憲政上杉朝定
足利晴氏ト。大舉シテ北條綱成ヲ河越城ニ圍ム。
綱成固ク守ル。明年。四月。北條氏康兵ヲ率キテ綱

葡萄牙人
鳥銃ヲ傳フ

氏康敵ヲ
川越ニ破ル

晴元京師
ニ入り義
晴奔ル

成ヲ援ケ。夜ニ乘シテ敵營ヲ斫ル。綱成城ヲ出テ
テ夾撃シ。遂ニ大ニ之ヲ破リ。晴氏憲政ヲ走ラシ。
朝定ヲ獲タリ。是ヨリ關東ノ諸將。多ク氏康ニ屬
ス。氏康ハ氏綱ノ子ナリ。○十三年。七月。義晴細川
晴元ト和ヲ講ス。○十五年。九月。晴元義晴ニ逼ル。
義晴職ヲ罷メ。坂本ニ遜ル。其子義輝。征夷大將軍
ト為ル。○十六年。三月。義晴晴元ノ專恣ヲ惡シ。畠
山政國ト之ヲ除カンコトヲ謀リ。出テ、北白河
城ニ屯ス。七月。晴元大舉シテ京師ニ入ル。六角定
頼之ヲ援ク。義晴義輝近江ニ奔ル。尋キテ和ヲ講

京師ニ還ル。晴元管領故ノ如シ。○是歲武田晴
 信村上義清ヲ信濃ニ擊ツ。義清越後ニ奔リ。長尾
 景虎ニ依ル。○十八年四月。三好範長其族政長ヲ
 攻ム。細川晴元政長ヲ援ケ。三宅城ニ據ル。範長攻
 メテ之ヲ拔キ。政長ヲ斬ル。晴元乃義晴義輝ヲ挾
 ミテ近江ニ奔ル。範長後髮ヲ削リ。長慶ト稱ス。○
 十月。長尾景虎兵ヲ信濃ニ出シ。武田晴信ト海野
 甲越兵結
 ニ戦フ。是ヨリ甲斐越後ノ兵。結ヒテ解ケス。○十
 九年。二月。義晴東山ニ城キ。範長ヲ討タントス。會
 病起リ。穴太山中ニ薨ス。十一月。範長京師ニ入リ

テ。東山城ヲ焚ク。○二十年。七月。範長晴元ヲ攻ム。
 晴元義輝ヲ挾ミテ近江ニ奔ル。○是月。北條氏康
 上杉憲政ヲ平井城ニ攻ム。憲政越後ニ奔リ。長尾
 景虎ニ依リ。授クルニ其姓氏職號ヲ以テス。○二
 十一年。正月。足利義輝三好範長ト和シ。京師ニ還
 リ。細川晴元ヲ罷メ。細川氏綱ヲ以テ管領ト爲ス。
 晴元丹波ニ遜ル。範長ノ臣松永久秀權ヲ擅ニス。
 ○二十二年。五月。武田晴信小笠原長時ヲ滅シ。信
 濃ヲ併ス。○六月。三好範長ノ弟之康其主細川持
 隆ヲ弑シ。阿波ヲ奪フ。○七月。足利義輝範長ノ專

憲政職號
 ヲ景虎ニ
 授ク

久秀權ヲ
 擅ニス

恣ヲ病ミ。細川晴元ヲ召シ還ス。範長之ヲ聞キ來
 リ侵ス。義輝晴元近江ニ奔ル。○弘治元年。九月。毛
 利元就陶晴賢ヲ誅ス。是ヨリ先。晴賢其主大内義
 隆ヲ弑シ。豐後國主大友義鑑ノ子義長ヲ迎ヘテ
 主ト爲シ。自威權ヲ專ニス。元就義隆ノ遺囑ヲ受
 ケテ賊ヲ討テ。晴賢ヲ嚴島ニ誘致シ。襲ヒテ之ヲ
 誅シ。遂ニ義長ヲ攻メ殺ス。是ニ至リ。兵威大ニ振
 フ。○三年。九月。天皇崩ス。在位三十一年。方仁親王
 立ツ。

正親町天皇ハ。後奈良帝ノ長子ナリ。○永祿元年。

元就晴賢ヲ誅ス

義龍其父ヲ弑ス

元就即位ノ資ヲ獻ス
 義輝偏諱ヲ與ヘ名ヲ景虎ニ與フ

十一月。足利義輝三好範長ト和シ。京師ニ還ル。○
 二年。四月。齋藤利政其子義龍ノ弑スル所ト爲ル。
 利政嘗テ其主長井某ヲ弑シ。美濃主護土岐賴藝
 ニ仕ヘ。後又之ヲ逐ヒ。並ニ其地ヲ奪フ。是ニ至リ。
 義龍ト戦ヒテ敗死ス。○三年。正月。天皇即位ノ禮
 ヲ行フ。毛利元就其資ヲ獻ス。○五月。上杉景虎入
 朝ス。尋キテ將軍義輝ニ覲ス。義輝偏諱ヲ與ヘ。名
 ヲ輝虎ト改メ。關東管領ト爲ス。乃關白藤原前嗣
 ヲ奉シテ國ニ還ル。○是月。今川義元大舉シテ尾
 張ニ入リ。鷲津丸根ニ城ヲ拔キ。桶峽ニ屯ス。兵四

信長義元ヲ斬ル

萬ト稱ス。織田信長兵二千ヲ以テ。間道ヨリ雷雨ニ乘シ。其中堅ヲ襲ヒ。義元ヲ斬ル。是ヨリ兵威大ニ振フ。○四年。二月。飛彈國司藤原嗣賴參議ニ任ス。時ニ兵革相踵キ。朝臣國司ニ任スル者。土豪ノ滅ス所ト為ル。唯飛彈伊勢土佐三國司ノ僅ニ存ス。○三月。上杉輝虎藤原前嗣ヲ擁シ。北條氏康ト上野ニ戰ヒテ之ヲ破ル。關東ノ豪傑響應ス。四月。輝虎七十六將ヲ總御シ。氏康ヲ小田原ニ圍ム。氏康固ク守リテ出テス。輝虎乃退キテ鎌倉ニ入リ。鶴岡祠ニ謁シ。忍城主成田長康ヲ辱カシム。長

三國司

河
中
島
ノ
戰

康悲リ。辭セスシテ去ル。將士叛ク者多シ。輝虎遂ニ師ヲ班ス。○九月。輝虎信濃ニ入り。西條山ニ陣ス。武田晴信兵ヲ分チ。高坂昌信ヲシテ夜ニ乘シテ之ヲ襲ハシメ。自川中島ニ陣シ。其歸路ヲ斷ツ。輝虎之ヲ悟リ。急ニ營ヲ抜キ。宇佐美定行ヲシテ犀川ヲ守ラシメ。黎明進ミテ晴信ノ營ヲ斫ル。營亂ル。將士多ク戰死ス。既ニシテ昌信等還リ救フ。輝虎軍ヲ引キテ退ク。定行旗ヲ渡口ニ樹テ。以テ全軍ヲ濟ス。○五年。詔シテ密旨ヲ織田信長ニ賜フ。○七年。正月。北條氏康里見義弘ト國府臺ニ戰

國府臺ノ戰

正親町

と之ヲ破ル。初氏康太田資正ヲ攻メテ松山城ヲ
 取ル。資正援ヲ義弘ニ請フ。義弘乃安房上總ノ兵
 ヲ率キ。江戸城ヲ襲ハントス。氏康逆ヘ戦ヒテ。大
 ニ之ヲ破ル。○八月。織田信長齋藤龍興ヲ伐チテ
 之ニ克チ。美濃ヲ併セ。徙リテ稻葉山ニ治ス。名ケ
 又秀義輝テ岐阜ト曰フ。○八年。五月。松永久秀其君義輝ヲ
 弑シ。足利義榮ヲ立ツ。義輝ノ弟義昭近江ニ奔ル
 時ニ三好範長既ニ死シ。久秀益專横ナリ。義輝密
 ニ之ヲ除カント謀ル。未發セスシテ害セラレ。○
 九年。七月。毛利元就出雲ヲ併ス。初元就尼子義久
 元就出雲
 ヲ併ス

又秀義輝
 ヲ弑ス

元就出雲
 ヲ併ス

ヲ富田城ニ攻ムル。七年。是ニ至リ城陥リ。出雲悉
 平ク。○十年。二月。北條氏康大舉シテ上野ニ入リ。
 上杉輝虎ヲ厩橋城ニ攻メ以テ小田原ノ役ニ報
 ス。武田晴信後繼タリ。輝虎敢テ出テス。氏康晴信
 遂ニ兵ヲ解キテ去ル。○十一年。二月。足利義榮ヲ
 以テ征夷大將軍ト為ス。尋キテ薨ス。○足利義昭
 織田信長ニ依リ。賊ヲ討タンコトヲ謀ル。是ヨリ
 先。信長入朝ノ志アリ。和ヲ武田晴信ニ求ム。是
 於キテ。義昭ヲ奉シテ西上シ。近江ノ諸城ヲ下シ。
 六角義賢ヲ走リシヤ。遂ニ京師ニ入ル。十月。詔シテ

義昭信長
 ニ依ル

晴信駿河ヲ取ル

義昭ヲ以テ征夷大將軍ト為ス。松永久秀三好義次皆降ル。義昭之ヲ誅セント欲ス。信長聽カス。○十二月。武田晴信兵ヲ出シテ今川氏真ヲ攻ム。氏真走リテ北條氏康ニ依ル。晴信遂ニ駿河ヲ取ル。○十二年。正月。氏康氏真ノ為ニ兵ヲ出シ。晴信ト薩埵山ニ相拒ク。互ニ勝敗アリ。○四月。織田信長二條第ヲ修メ。義昭ヲ奉シ。又大内ヲ修メ。木下秀吉ヲ遣リ。京師ヲ護ラシム。秀吉ハ尾張ノ人輿僮ヨリ起リ。功ヲ積ミ將校ニ列ス。權畧諸將ニ冠タリ。○六月。尼子氏ノ遺臣山中幸盛。義故ヲ招集シ。

信長大内ヲ修ム

幸盛兵ヲ起ス

經久ノ孫勝久ヲ奉シテ。兵ヲ出雲ニ起シ。新山城ニ據リ。伯耆ヲ取ル。近國諸城響應ス。○八月。織田信長伊勢ヲ伐ツ。國司北畠具教和ヲ請フ。信長之ヲ許シ。其子信雄ヲ以テ具教ノ嗣ト為ス。○元龜元年。四月。織田信長朝倉義景ヲ越前ニ伐チ。手筒金崎二城ヲ拔ク。淺井長政兵ヲ近江ニ擧ケ。義景ヲ援ク。信長引キ還ル。○六月。信長徳川家康ト兵ヲ合セテ長政ヲ攻メ。家康ヲシテ義景ニ當ラシム。家康義景ノ兵ヲ姊川ニ撃チ。大ニ之ヲ破ル。家康ハ新田義貞ノ遠孫ニシテ。世參河ニ居レリ。○

姊川ノ戰

十月。北條氏康卒ス。氏康下ヲ馭スル寛緩ニシテ。衆ノ心ヲ得タリ。故ニ能ク八州ヲ併ム。○二年。六月。毛利元就卒ス。孫輝元嗣ク。元就善ク兵ヲ用キ。山陰山陽十三州ヲ并ス。其二子吉川元春小早川隆景ニ遺命シテ。輝元ヲ輔ケシム。○九月。織田信長叡山ヲ焚キ滅ホシ。僧徒ヲ捕ヘ。少長トナク。悉之ヲ斬ル。初信長三好康長ヲ攝津ニ攻ム。朝倉義景淺井長政追躡ス。信長還リ撃チテ。之ヲ叡山ニ圍ミ。使ヲ遣リテ僧徒ヲ招諭ス。僧徒從ハス。故ニ此ニ及フ。○三年。十二月。武田晴信遠江ヲ侵ス。徳

元就十三州ヲ并ス

信長叡山ヲ焚ク

三形原ノ戦

川家康援ヲ信長ニ請ヒ。三形原ニ逆ヘ戦ヒ。敗績ス。○天正元年。正月。足利義昭信長ト協ハス。兵ヲ稱ケテ信長ヲ討ツ。信長之ヲ京師ニ攻ム。義昭成ヲ求ム。既ニシテ復之ヲ圖ル。信長攻メテ之ヲ執ヘ。河内ニ遷ス。詔シテ義昭ノ官爵ヲ削ル。足利氏政ヲ執リシヨリ。是ニ至ル十三世。二百三十餘年ニシテ亡ス。信長村井貞勝ヲ以テ所司代ト爲シ。令ヲ京師ニ出ス。後義昭諸國ニ流寓シ。終ニ毛利輝元ニ依リテ薨ス。○三月。武田晴信卒ス。晴信沉殺ニシテ權畧多シ。善ク兵ヲ用キ。甲斐ニ據リテ。

足利氏七

信長義景
長政ヲ滅
ス

鄰國ヲ經畧ス○八月。信長淺井長政ヲ伐チ。月瀬
城ヲ下ス。朝倉義景大舉シテ來リ援フ。信長義景
ヲ敦賀ニ破リ。窮追シテ之ヲ斬リ。還リテ長政ヲ
小谷城ニ攻ム。長政奮戰シテ死ス。淺井朝倉二氏
俱ニ滅フ○三年。正月。信長境内ニ令シ道路ヲ治
ム。津梁ヲ造リ。關征ヲ蠲キ。徭役ヲ弛フ○五月。武
田勝頼大舉シテ參河ニ入り。長篠城ヲ圍ム。城將
奥平信昌急ヲ德川家康ニ告ク。家康援ヲ信長ニ
請フ。信長自將トシテ來リ援ヒ。大ニ勝頼ヲ破ル。
甲斐ノ宿將精兵殆盡ク。勝頼ハ晴信ハ子ナリ○

長篠ノ戰

八月。加賀盜起ル。信長柴田勝家等ヲ遣リ。討チテ
之ヲ平ケ。越前ヲ勝家ニ授ケ。以テ上杉輝虎ニ備
フ○四年。正月。信長大ニ安土ニ城キ。徙リテ之ニ
居ル○是歲。西洋ノ人大砲ヲ大友義鎮ニ贈ル○
五年。十月。松永久秀叛ス。織田信長討チテ之ヲ誅
ス。是ヨリ先。信長本願寺光佐ヲ大坂ニ攻ム。久秀
信貴城ニ據リ光佐ニ應ス。信長兵ヲ遣リ急ニ久
秀ヲ攻メ。遂ニ之ヲ族誅ス○十一月。信長ヲ右大
臣ニ任ス○六年。三月。上杉輝虎卒ス。輝虎能ク兵
ヲ用キ。機ニ臨ミ勝ヲ制スル。疾キコト風雨ノ如

勝又自殺ス

信長光佐ト和ス

シ。姪景勝嗣ク○四月。毛利輝元吉川元春小早川隆景ヲシテ尼子勝久ヲ上月城ニ圍マシム。信長羽柴秀吉ヲ遣リ之ヲ援ク。利アラズ。秀吉退キテ書寫山ヲ保ツ。城陷ル。勝久自殺ス。山中幸盛降ル。元春之ヲ甲部川ニ誅ス○十月。荒木村重信長ニ叛キ。其邑伊丹ニ據ル。十一月。信長之ヲ討チテ克タス。七年。冬。遂ニ伊丹ヲ拔ク。村重走リテ毛利輝元ニ投ス○八年。七月。本願寺光佐ニ詔シテ。信長ト和セシム。光佐大坂城ヲ輸シテ去ル。初信長大坂城ヲ攻ル數歲。拔ク能ハス。諸國ノ門徒蜂起シ

秀吉中國ヲ畧ス

信長勝賴ヲ滅ス

テ之ニ應ス。是ニ至リ始メテ平ク○是歲。備前國主浮田直家其子秀家ヲシテ款ヲ信長ニ送ラシム。信長乃羽柴秀吉ヲ遣リ。山陰山陽ヲ經畧セシム。秀吉播磨ヲ定ム。但馬因幡ノ諸城ヲ下ス。是ヨリ先。秀吉丹羽柴田ノ武名ヲ慕ヒ。自姓ヲ改メテ羽柴ト爲ス○九年。正月。秀吉姫路ニ城キ。西伐ノ根據ト爲ス○十年。正月。信長伊勢神宮ヲ新ニス○二月。信長兵十二萬ヲ發シ。武田勝賴ヲ伐ツ。徳川家康北條氏政各兵數萬ヲ以テ之ニ會ス。諸城皆陷ル。勝賴走リテ天目山ニ竄ル。信長攻メテ之

ヲ殺ス。武田氏滅フ。信長乃穴山信吉河尻秀隆ヲ
シテ甲斐ヲ守ラシメ。瀧川一益ヲ以テ關東管領
ト爲シ。上野ニ居ラシム。○五月。羽柴秀吉備中ニ
入り。高松城ヲ圍ム。毛利輝元大舉シテ來リ援ク。
秀吉援ヲ信長ニ請フ。○六月。明智光秀其君右大
臣信長ヲ弑ス。森蘭丸村井貞勝等之ニ死ス。初信
長自將トシテ。輝元ヲ伐タントシ。其子信忠ト輕
騎京師ニ入り。本能寺ニ館ス。時ニ光秀西伐ノ命
ヲ受ケ。悉其兵ヲ發シ。急ニ戈ヲ反シテ本能寺ヲ
襲フ。信長火ヲ縱チ自盡ス。信忠妙覺寺ニ在リ。變

信長信忠
弑セラレ

秀吉輝元
ト和ス

ヲ聞キ之ニ赴ク。亦弑ニ遇フ。前田玄以信忠ノ子
三法師ヲ奉シテ。清洲ニ走ル。信長英武絶倫ニシ
テ。強梗ヲ誅鋤シ。叛亂ヲ鏟平シ。天子ヲ挾ミテ。諸
侯ニ號令ス。是時。秀吉輝元ト相持ス。輝元使ヲ遣
シ和ヲ議ス。會京師ノ凶音至ル。秀吉告クルニ實
ヲ以テス。輝元其喪ヲ吊シ。兵ヲ發シテ秀吉ヲ援
ク。秀吉乃師ヲ班シ。織田信孝丹羽長秀等ト光秀
ヲ討チ。與ニ山崎ニ戦ヒ。大ニ之ヲ破ル。光秀逃レ
テ小栗栖ニ至リ。土兵ノ殺ス所ト爲ル。乃其首ヲ
栗田口ニ梟ス。○八月初。信長ノ害ニ遭フヤ。瀧川

光秀誅ニ
伏ス

諸將秀信ヲ擁立ス

一益柴田勝家等各兵ヲ率キテ至ル。賊既ニ平ク。乃秀吉信孝長秀等ト清洲ニ會シ。相議シテ三法師ヲ立テ。名ヲ秀信ト改メ。奉スルニ近江三十萬石ヲ以テシ。尾張ヲ叔父信雄ニ。美濃ヲ信孝ニ授ケ。諸將其遺地ヲ分領ス。○十月。信孝秀吉ノ威名ヲ忌ミ。勝家一益等ト之ヲ除カント謀ル。秀吉先ツ發シ。信孝ヲ岐阜ニ圍ム。勝家雪ニ阻マレ。兵ヲ出ス能ハス。信孝伴リテ成ヲ行フ。○十一年。正月。秀吉一益ヲ伊勢ニ伐ツ。勝家佐久間盛政ヲシテ之ヲ援ハンム。二月。秀吉長濱ニ屯シ。賤岳ノ十三

秀吉岐阜ヲ圍ム

秀吉北國ヲ定ム

秀吉大坂城ヲ修ム

塞ヲ修メ。勝家ヲ拒ク。四月。信孝兵ヲ起シ。勝家一益ニ應ス。秀吉復岐阜ヲ攻ム。盛政隙ニ乘シ。急ニ賤岳塞ヲ襲ヒ。中川清秀ヲ殺ス。秀吉警ヲ聞キ。袂ヲ投シテ之ニ赴キ。撃チテ盛政ヲ擒ニシ。長驅シテ勝家ヲ北莊ニ攻ム。勝家自刃ス。北國悉平ク。秀吉軍ヲ班シ。復信孝ヲ圍ム。信孝降ル。迫リテ自殺セシム。一益亦降ル。○是歲。秀吉大坂城ヲ修築シテ之ニ居ル。○十二年。正月。織田信雄竊ニ秀吉ヲ圖ル。秀吉兵ヲ發シテ信雄ヲ撃ツ。信雄援ヲ徳川家康ニ請フ。四月。家康信雄ヲ援ケ。小牧山ニ陣ス。

秀吉南海ヲ定ム

秀吉ノ將池田信輝森長可等。其虚ヲ擣カント欲
長湫ノ戦ス。家康急ニ兵ヲ旋シテ。長湫ニ逆ヘ戦ヒ。大ニ之
ヲ破リ。遂ニ信輝長可ヲ斬ル。秀吉乃人ヲシテ和
ヲ請ハシム。信雄之ヲ許ス。尋キテ家康ト和ス。○
十三年。三月。秀吉根來雜賀ノ僧徒ヲ征ス。初僧徒
險隘ニ盤據シ。屢寇盜ヲ爲ス。小牧ノ役。大坂近旁
ヲ焚掠ス。是ニ至リ。秀吉其巢穴ヲ掩ヒテ之ヲ殲
ス。紀伊和泉悉平ク。○五月。秀吉其姪秀次浮田秀
家等ヲ遣リ。長曾我部元親ヲ土佐ニ伐タレム。元
親降ル。南海悉定マル。○七月。秀吉從二位ニ叙シ。

家康大坂ニ至ル

豊臣ノ姓ヲ賜フ

關白ニ任ス。○八月。秀吉佐佐成政ヲ越中ニ伐チ
テ之ヲ降シ。單騎越後ニ入り。上杉景勝ト盟フ。○
是歲。秀吉内野ニ城ク。號シテ聚樂ト曰フ。○十四
年。十月。徳川家康大坂ニ至ル。初秀吉數使ヲ遣リ。
家康ニ入京ヲ勸メ。又其妹ヲ以テ之ニ女ス。是ニ
至リテ家康大坂ニ赴ク。秀吉爲ニ第ヲ聚樂ニ築
ク。○十一月。天皇位ヲ周仁親王ニ傳フ。在位二十
九年。周仁親王立ツ。
後陽成天皇ハ。正親町帝ノ嫡孫ナリ。○天正十四
年。十二月。秀吉ヲ以テ太政大臣ト爲シ。姓豊臣ヲ

石倉也 後陽成

二十七

秀吉九州ヲ定ム

賜フ。關白故ノ如シ。○十五年。二月。秀吉鳥津義久ヲ討ツ。初龍造寺隆信九州ニ雄タリ。義久薩摩ヨリ起リ。日向大隅ヲ取り。遂ニ隆信ヲ破リ之ヲ殺シ。又大友義統ヲ豊後ニ攻ム。義統援ヲ秀吉ニ請フ。秀吉仙石秀久長曾我部元親等ヲ遣リ之ヲ援ケシム。秀久敗走シ元親之ニ死ス。義久兵威益振フ。是ニ至リ。秀吉兵二十餘萬ヲ率キテ西征シ。連戰皆捷ツ。五月。進ミテ鹿兒島ニ入ル。義久窮蹙シ。弟義弘ト出テ降ル。九州悉平ク。○十六年。四月。天皇聚樂第ニ幸ス。秀吉列侯已上ヲシテ各載書ヲ

秀吉府庫ノ金ヲ頒ツ

獻セシム。○是歲。秀吉大判金小判金ヲ鑄ル。○十七年。五月。秀吉府庫ヲ發キ。金銀三十六萬五千兩ヲ親王公卿諸侯大夫ニ頒ツ。○七月。秀吉使ヲ遣リ。北條氏政ノ入朝ヲ促ス。氏政遷延未至ラス。○十八年。正月。秀吉奏シテ北條氏政ヲ討タント請フ。詔シテ節刀ヲ賜フ。○十八年。二月。秀吉兵二十萬ヲ率キテ東征ス。徳川家康先鋒タリ。四月。小田原ヲ圍ム。氏政壁ヲ固クシ。肯テ出テス。秀吉諸將ヲ分遣シテ。關東八州六十餘城ヲ下ス。○五月。伊達政宗陸奥ヨリ來リ。家康ニ因リテ降ヲ乞フ。七

秀吉氏政ヲ討ソ

秀吉家康ヲ封ス

月氏政出テ降ル。秀吉之ヲ殺シ。其子氏直ヲ高野ニ放チ。其故地ヲ擧ケテ。家康ヲ封ス。○八月。秀吉白河ニ至リ。吏ヲ遣リ。陸奥出羽ノ地ヲ檢セシメ。蒲生氏郷ヲ會津ニ封シ。織田信雄ヲ參遠駿甲信五國ニ移シ封ス。信雄受ケス。秀吉怒リテ出羽ニ放ツ。九月。秀吉京師ニ還ル。○十九年。十二月。秀吉職ヲ辭ス。奏シテ豐臣秀次ヲ以テ關白ト爲シ。自大閤ト稱ス。○文祿元年。二月。天皇聚樂第ニ幸ス。○四月。秀吉朝鮮ヲ征ス。初秀吉數朝鮮ニ諭シ。我兵ヲ導キ明ヲ伐タシム。報セス。是ニ至リ。大兵ヲ

秀吉朝鮮ヲ征ス

清正行長先鋒タリ

發シ。分チテ八軍ト爲シ。以テ朝鮮ノ八道ニ向ハシム。加藤清正小西行長先鋒タリ。黒田長政島津義弘福島正則小早川隆景立花宗茂毛利輝元等之ニ繼ク。兵凡二十餘萬。浮田秀家ヲシテ之ヲ總ヘシム。兵艦海ヲ蔽ヒ進ム。五月。行長國都ニ入ル。韓主李岷出テ。平壤ニ奔ル。清正咸鏡道ニ入リ。二王子ヲ擒ニス。李岷急ヲ明ニ告ク。明主朱翊鈞乃祖承訓史儒ヲシテ。兵ヲ率キテ平壤ヲ援ケシム。行長邀ヘ撃チテ。大ニ之ヲ破リ。史儒ヲ斬リ。承訓ヲ走ラシ。遂ニ平壤ヲ取ル。○十一月。清正咸鏡

行長國都ニ入ル

清正王子ヲ擒ニス

行長平壤ヲ取ル

道ヲ平ク○二年正月正親町法皇崩ス○是月明
將李如松大舉シテ平壤ヲ攻ム。行長敗レテ國都
ニ走ル。如松勝ニ乘シ。鼓行シテ來ル。隆景宗茂等
如松ヲ碧蹄館ニ邀撃シ。大ニ之ヲ破ル。明軍畏懼
シテ復南下セス○六月秀吉明ト和ヲ講シ。韓ノ
二王子ヲ還シ。諸將ヲシテ晉州ヲ屠ラシム。初明
韓ノ猛將精兵多ク晉州ニ在リ。屢我軍ヲ敗ル。是
ニ至リ。諸將兵ヲ合セ攻メテ之ヲ拔キ。明將徐禮
元ヲ斬リ。遼東ノ突騎六萬人ヲ殲ス○三年正月
征韓ノ諸將引キ還ル。小西行長等尚釜山ヲ守ル

隆景李如松ヲ破ル

明ト和ヲ講ス

晉州ヲ屠ル

○是歲伏見城成ル。秀吉徙リ居ル○四年七月秀
吉關白秀次ヲ殺ス。初秀吉子ナシ。乃秀次ヲ養ヒ
テ嗣ト爲ス。既ニシテ秀頼ヲ生ム。會秀次驕縱ニ
シテ殺ヲ嗜ム。石田三成増田長盛等之ヲ媒孽シ。
遂ニ之ニ及フ○八月葡萄牙人ニ互市ヲ許ス。初
葡萄牙人通市ニ託シテ。耶蘇教ヲ傳フ。秀吉民ヲ
惑ハスヲ恐レ。其徒ヲ長崎ニ磔シ。互市ヲ禁ス。長
崎ノ民請ヒテ止マス。乃之ヲ許ス○慶長元年九
月。明使楊方亨沈惟敬韓使黃慎朴弘長等來ル。是
ヨリ先。惟敬小西行長ニ説キテ和ヲ講シ。冊封ノ

秀次ヲ殺ス

葡萄牙人互市ヲ請フ

明韓使來ル

事ヲ議ス。惟敬辯口アリ。行長不學ニシテ。封王ノ
 故事ヲ知ラス。故ニ惟敬ノ瞞スル所ト爲リ。謂フ
 秀吉當ニ明國ニ王タルヘシト。因リテ秀吉ニ陳
 シ和ヲ許サシム。是ニ至リ。秀吉冊文ヲ讀マシメ
 爾ヲ封シテ日本國王ト爲スト云フニ至リ。大ニ
 怒リテ使者ヲ逐フ。○二年。二月。秀吉兵十四萬ヲ
 發シテ。復朝鮮ヲ征ス。韓主李昫警ヲ聞キテ。海州
 奔ル。明主邢玠楊鎬等ヲシテ朝鮮ヲ援ケシム
 ○十二月。楊鎬大兵ヲ率キ。加藤清正ヲ蔚山ニ圍
 ム。清正淺野幸長ト。堅ク守リテ屈セス。時ニ天寒

秀吉再朝
鮮ヲ征ス

蔚山ノ圍

大ニ明兵
ヲ破ル

ク大ニ雪アリ。士卒指ヲ墜ス者アリ。○三年。正月。
 諸將蔚山ヲ援フ。清正幸長城ヲ出テ、夾撃シ。大
 ニ之ヲ破ル。明兵ノ伏屍。數十里絶エス。○四月。邢
 玠兵ヲ水陸四路ニ分チ。機ヲ相テ戰ヲ決セシト
 欲ス。我軍亦分レテ要害ヲ守ル。加藤清正蔚山ニ
 據リ。小西行長栗林ニ據リ。島津義弘泗川ニ據ル
 ○七月。秀吉病篤シ。德川家康前田利家毛利輝元
 浮田秀家上杉景勝ヲ以テ五大老ト爲シ。中村一
 氏生駒親正堀尾吉晴ヲ三中老ト爲シ。秀賴ヲ輔
 翼セシム。○八月。前關白太政大臣秀吉薨ス。秀吉

秀吉雄才
大畧アリ

雄才大畧アリ。身奴僕ヨリ起リ。位人臣ヲ極メ。能ク諸將ヲ駕御シ。遂ニ威ヲ海外ニ震フ。○九月。明將董一元大擧シテ泗川ヲ攻ム。島津義弘撃チテ大ニ之ヲ破ル。斬首數萬級。明兵懼レテ復來リ窺ハス。○十一月。外征諸將盡引キ還ル。○四年。閏三月。加藤清正福島正則等石田三成ノ奸佞ヲ惡シ。之ヲ除カント請フ。徳川家康諭シテ止ム。三成職ヲ免シ。其邑澤山ニ還リ。竊ニ謀ヲ上杉景勝ニ通シ。家康ヲ陸奥ニ誘致シ。西國ノ諸侯ト夾ミ攻メント欲ス。故ニ景勝國ニ就キ。期ヲ過キテ至ラス。

三成職ヲ
免ス

家康景勝
ヲ代ツ

家康ノ十罪ヲ暴ス。○七月。家康大老ヲシテ國ニ就カシム。其餘諸將亦國ニ還ル。○五年。七月。家康景勝ヲ伐ツ。細川忠興福島正則池田輝政等從フ。三成乃兵ヲ擧ケ。毛利輝元ヲ擁シテ盟主ト為シ。浮田秀家小早川秀秋島津義弘小西行長長曾我部盛親等ト。伏見城ヲ陷レ。城將鳥居元忠ヲ殺シ。勝ニ乘シ美濃ニ至ル。兵凡十二萬餘。時ニ家康既ニ下野ニ至ル。其子結城秀康ヲ留メテ。景勝ニ當ラシメ。師ヲ班ス。正則先鋒タリ。兵凡七萬餘。進ク。關原ノ戰テ西軍ト大ニ關原ニ戰フ。勝敗未決セス。秀秋兩

關原ノ戰
後陽成

西軍大潰端ヲ觀望シテ動カス。遂ニ家康ニ應ス。西軍大ニ潰ユ。秀家義弘盛親等走リ。三成及行長等捕斬セラル。景勝亦來リ降ル。乃輝元ノ封ヲ削リ。大ニ黜罰ヲ行フ。○六年。家康金ヲ石見佐渡ニ采リ。大判小判一分金ヲ改鑄ス。慶長金是ナリ。○四月。家康板倉勝重ヲ以テ京師所司代ト爲ス。時ニ兵革始メテ熄ミ。事務極メテ繁シ。勝重明敏強毅ニシテ。裁決流ル、如シ。府ニ滯案ナク。獄ニ淹囚ナシ。都人大ニ悦フ。○八年。二月。家康ヲ以テ征夷大將軍ト爲ス。家康奏シテ。大ニ諸將ヲ封拜ス。秀賴獨攝

家康大將
軍ニ任ス

家康道程
ヲ定ム

津河内和泉ヲ食ム。○七月。秀賴福島正則ニ命シテ。密ニ西國諸侯ノ誓書ヲ徵セシム。○家康孫女ヲ以テ秀賴ニ妻ハス。秀賴之ヲ妻視セス。○九年。二月。家康東北三道ニ命シテ。道程ヲ定ム。埃樹ヲ植エ。三十六町ヲ以テ一里ト爲サシム。西南四道皆之ニ倣フ。○十年。三月。徳川秀忠東國諸侯ヲ率平テ入朝ス。秀忠ハ家康ノ子ナリ。○四月。家康職ヲ辭シ。駿府ニ老ス。詔シテ秀忠ヲ以テ征夷大將軍ト爲シ。秀賴ヲ右大臣ト爲ス。○是歲。葡萄牙人煙草ヲ大隅ニ傳フ。○十一年。正月。家康諸侯ニ課

家康 皇宮
ヲ修ム

朝鮮 修信
使來ル

家久 琉球
ヲ征ス

レテ。皇宮ヲ修メ。三月。大ニ江戸城ヲ修メシム。○十二年。正月。家康又諸侯ニ課シテ。駿府ニ城カシ。遂ニ徙リ居ル。○五月。朝鮮ノ修信使江戸ニ來リ。方物ヲ獻シ。遂ニ駿府ニ至リ。家康ニ謁ス。初家康朝鮮ト和セシト欲シ。宗義智ヲレテ其事ヲ掌ラシム。是ニ至リ和成ル。朝鮮使ヲ遣レ來ラシム。後大將軍ノ代襲毎ニ必來聘ス。○十三年。五月。島津家久幕府ニ請ヒ。琉球ヲ征ス。初家久令ヲ奉レテ。琉球ヲ招ク。至ラス。琉球ハ即古ノ南島ナリ。靈龜中。始メテ内附シ。歲時來貢ス。慶長以後復來ラ

諸侯ノ邸
ヲ江戸ニ
置ク

ス。是ニ至リ。家久諸將ヲ遣リ之ヲ伐タシム。連戦皆捷チ。遂ニ都城ニ入り。其王尚寧ヲ擒ニス。諸將歳ニ抄略ヲ禁シ。國民ヲ撫ス。十月。戊ヲ置キテ歸ル。家康乃其國ヲ以テ薩摩ニ隸ス。家久ハ義弘ノ弟ナリ。○十二月。是ヨリ先。家康多ク錢ヲ鑄ル。是ニ至リ。永樂錢ヲ停ム。○十四年。十月。家康書ヲ和蘭人ニ賜ヒ。毎歲平戸ニ來リテ。互市スルヲ許ス。○是歲。家康諸侯ノ邸第ヲ江戸ニ置キ。其妻子ヲ質トシ。隔年交代セシメ。又西國諸侯ノ兵艦ヲ造ルヲ禁ス。○十五年。三月。家康諸侯ニ課シテ。名古

屋ニ城カシム○十六年三月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。在位二十五年。皇太子立ツ。

後水尾天皇ハ。後陽成帝ノ第三子ナリ○九月。京師ノ人田中莊助西班牙ヨリ還リ。彩屬葡萄酒等ヲ獻ス○十二月。家康長崎ヲ以テ。外國ノ互市場ト定メ。邪蕪教ノ徒ヲ檢シテ盡之ヲ逐フ○十七年。六月。京師大坂及堺浦ノ豪商ヲ江戸ニ徙ス○十八年。正月。家康秀賴ヲシテ片桐且元大野治長ノ祿ヲ増サシム。且元秀吉ノ遺命ヲ以テ。秀賴ヲ保護ス。治長淀君ニ寵アリ。頗事ヲ專ニス。且元寢

邪蕪
徒
ヲ逐フ

疎セラル。淀君ハ秀賴ノ生母淺井氏ナリ○十月。

老中ノ始家康江戸駿府ニ老中ヲ置ク。老中此ニ始マル○

十九年。二月。高山友祥内藤如安邪蕪教ヲ修ムル

ヲ以テ。遠流セラル○十月。秀賴諸國ニ檄シテ兵

秀賴兵ヲ募ル

ヲ募リ。家康ヲ擊タント欲ス。是ヨリ先。秀賴方廣

寺ヲ造リ。巨鐘ヲ鑄ル。秀賴自往キテ落セント欲

方廣寺鐘銘

ス。鐘銘ニ國家安康。及大小釋迦。迭ニ主伴ヲ爲ス

ノ語アリ。家康之ヲ怒リ。已ヲ咒詛スルト爲シ。其

會儀ヲ停ム。物情騷然タリ。片桐且元憂懼シ。陳謝

甚カム。淀君却リテ且元ヲ疑フ。且元乃其邑茨木

家康大坂ヲ圍ム

ニ奔ル。是ニ至リ。大野治長等秀頼ニ勸メテ兵ヲ
 擧ケシム。真田幸村後藤基次郡良列等募ニ應ス
 ル者六萬人。諸侯一モ至ル者ナシ。○十一月家康
 秀忠兵五十萬ヲ率キテ。大坂ヲ圍ム。城兵善ク拒
 ク。家康人ヲ遣ハシテ和ヲ講セシム。秀頼之ヲ聽
 ク。乃城壕ヲ填メ。客兵ヲ逐ハシム。○元和元年。四
 月。秀頼再兵ヲ擧ケ。郡山ヲ侵ス。五月。家康秀忠大
 兵ヲ率キ。復大坂ヲ攻メ。遂ニ之ヲ拔ク。秀頼淀君
 火ヲ縱チテ自殺シ。幸村基次良列等之ニ死ス。豐
 臣氏滅フ。○六月。家康秀忠京師ニ朝シ。大ニ賞罰

家康復大坂ヲ攻ム

豐臣氏滅フ

ヲ行フ。又關白藤原昭實ト議シ。朝廷式十七條。武
 家式十三條ヲ撰ス。○十一月。家康諸侯ニ令レテ
 城壘ノ要地ニ非サル者ヲ毀タシム。時ニ諸藩ノ
 大ナル者二十餘國アリ。家康乃宗族勲舊ヲ封建
 シ。郡代代官ヲ置キ。諸藩ト大牙交錯シ。城番ヲ京
 師ニ置キ。城代ヲ伏見ニ置キ。奉行ヲ奈良佐渡長
 崎ニ置ク。治國ノ規模大ニ定マル。○二年。三月。天
 使駿府ニ臨ミ。家康ヲ以テ太政大臣ト爲ス。此ヨ
 リ將軍ノ叙任。皆就キテ詔ヲ傳フ。○四月。太政大
 家康薨ス。臣家康薨ス。家康沈毅大畧アリ。善ク兵ヲ用キ。上

一ノ八一巳巳六三三 後水尾

三二六

皇室ヲ尊ヒ。下生民ヲ愛ス。又文學ヲ崇ヒ。藤原肅
 林信勝ヲ延キ。治道ヲ詢リ。制度ヲ定ム。百事周匝
 至ラサルナシ。○三年。二月。秀忠家康ノ廟ヲ日光
 山ニ建ツ。號ヲ東照ト賜フ。○六月。秀忠入朝ス。○
 八月。後陽成上皇崩ス。○五年。五月。秀忠入朝ス。是
 月。安藝國主福島正則ヲ陸奥ニ放ツ。正則關原ノ
 戰功ヲ恃ミテ驕橫。擅ニ城郭ヲ築キ。無辜ヲ殺戮
 ス。故ニ及フ。○七月。秀忠其弟賴宣ヲ紀伊ニ封ス。
 是ヨリ先。義直封ヲ尾張ニ受ケ。賴房封ヲ水戸ニ
 受ク。是ヲ三家ト稱ス。諸侯抗禮スル者ナシ。○九

正則ヲ放

三家

寛永ノ三

忍岡東照

月。秀忠大坂城代城番ヲ置ク。○六年。六月。秀忠ノ
 女和子ヲ納レテ女御ト為ス。後中宮ニ進ミ。東福
 門院ト稱ス。○九月。伏見城ヲ毀ツ。○九年。六月。秀
 忠入朝ス。尋キテ職ヲ辭ス。子家光征夷大將軍ト
 為ル。老中酒井忠世土井利勝青山忠俊政ヲ輔ク。
 是ヲ寛永三輔ト稱ス。○寛永三年。八月。秀忠家光
 入朝ス。二條城ニ居ル。九月。天皇二條城ニ幸ス。家
 光諸侯ヲ率ヒテ扈從ス。天皇留ル五日。秀忠家光
 金銀寶器ヲ獻スル甚盛ナリ。○四年。九月。忍岡東
 照廟成ル。東叡山ト名ク。僧天海ヲ以テ導師ト為

古今要略卷三 後水尾

芝増上寺ト。並ニ定メテ德川氏墳墓ノ地ト爲
ス。○六年。七月。天皇位ヲ興子内親王ニ傳フ。在位
十八年。興子内親王立ツ。

若年寄ヲ
置ク

明正天皇ハ。後水尾帝ノ長女ニシテ。母ハ東福門
院ナリ。○八年。幕府若年寄ヲ置ク。若年寄此ニ始
マル。○九年。正月。前征夷大將軍秀忠薨ス。秀忠恭
儉温和。積亂ノ後ヲ承ケ。邑里凋殘シ。田野荒蕪ス。
故ニ征税ヲ薄クシ。徭役ヲ省キ。務メテ民ト休息
ス。應仁以來。財貨世乏シ。秀忠ニ至リ。府庫充盈。二
十年前ノ租ヲ用ウルニ至ル。○十月。家光其弟忠

秀忠民ト
休息ス

家光入朝ニ
大老職ヲ
置ク

長ヲ甲府ニ幽シ。尋テ之ヲ高崎ニ流シ。明年。遂
ニ之ヲ殺ス。忠長父ノ愛ヲ恃ミ。驕暴ヲ縱ニス。故
ニ此ニ及フ。○十一年。七月。家光入朝ス。從者三十
萬七千人。○是歲。幕府大老ヲ置ク。大老此ニ始マ
ル。○十二年。六月。家光武家制度十九章ヲ定メ。又
諸侯會同ノ期ヲ定ム。○七月。交趾呂宋阿媽港等
ノ互市ヲ停ム。耶蘇教ヲ嚴禁ス。明年。又商賈ノ外
國ニ往キ。及三檣ノ大船ヲ造ルヲ禁ス。天正以來。
商賈出テ。廣東臺灣東浦塞暹羅呂宋阿媽港等
ニ貿易シ。耶蘇教ニ浸染スル者多シ。故ニ之ヲ併

外船ノ互
市ヲ停ム
三檣ノ船
ヲ造ルヲ
禁ス

東照廟ヲ
日光山ニ
造ル

○十三年。四月。德川家光日光廟ヲ改造ス。諸侯伯及朝鮮琉球諸國器材ヲ獻ス。○六月。新錢

寛永通寶ヲ鑄ル。

文ヲ寛永通寶ト曰フ。土井利勝之ヲ監ス。

天草ノ亂

○十四年。十月。天草ノ民亂ヲ作ス。初大友小西ノ亡フル。遺臣民間ニ散處シ。耶蕪教ヲ奉ス。是ニ至

リ。益田時貞等愚民ヲ煽誘シ。原城ノ故趾ニ據ル。

家光西海ノ諸侯ニ命レ之ヲ討タシメ。板倉重昌

ヲレテ諸軍ヲ監セシム。賊善ク拒キ。官軍死傷多

シ。家光乃松平信綱戸田氏鐵ヲ遣リ之ヲ督セシ

ム。○十五年。正月。重昌急ニ城ヲ攻ム。克タスレテ

耶蕪教ヲ
禁ス

之ニ死ス。信綱等至リ。長圍ヲ築キテ之ヲ困ム。二
月。四面齊シク攻メ。遂ニ城ヲ屠ル。時貞以下男女
三萬七千餘人。殺戮皆殲ク。此役金ヲ用ウル。三十
九萬八千兩。皆大坂城中ニ取ル所ナリ。○十六年。
七月。申ネテ耶蕪教ヲ嚴禁ス。後令レテ耶蕪ノ像

ヲ畫キ。人ヲシテ之ヲ踏マシメ。以テ其徒ニ非サ

ルヲ證セシム。是ヨリ洋人ノ長崎ニ來ル者。或ハ

逐ヒ。或ハ殺シ。或ハ其船ヲ焚キテ之ヲ絶ツ。○十

内諸侯ノ
交代ヲ定

九年。五月。家光譜代諸侯交代ノ法ヲ定メ。遞年國

ニ就カシム。○二十年。十月。天皇位ヲ皇太子ニ傳

フ。在位十四年。皇太子立ツ。

後光明天皇ハ。後水尾帝ノ第三子ナリ。○正保三

年。三月。家光ノ請ヲ以テ。使ヲ遣リ幣ヲ日光廟ニ

賜フ。後以テ恆例ト為ス。是ヲ日光例幣使ト稱ス

○八月。後水尾帝ノ第四子守澄法親王ヲ以テ。東

叡山座主ト為ス。是ヲ輪王寺宮ト稱ス。皇子ノ日

光祭主ニ補スル。此ニ始マル。○十月。明ノ鄭成功

使ヲ長崎ニ遣シ。援兵ヲ請フ。初成功ノ父芝龍。亂

ヲ避ケテ肥前ニ來リ。田川氏ノ女ヲ娶リ。成功ヲ

生ム。清ノ明ヲ滅スヤ。成功福建ニ據リテ。恢復ヲ

日光例幣使

鄭成功援
ヲ請フ

家光英果
恩威並ヒ
行ハル

正之幼主
ヲ輔ク

正雪不軌
ヲ謀ル

圖リ。桑梓ノ誼ヲ以テ援ヲ請フ。幕府其事情ヲ詳

ニセス。使ヲ諭シテ還ラシム。○慶安四年四月。征

夷大將軍家光薨ス。家光英果ニシテ。恩威並ヒ行

ハレ。諸侯畏服ス。初大藩ノ江戸ニ覲スル者ハ。將

軍之ヲ郊迎シ。厚ク禮待ヲ加フ。家光ニ至リ。大藩

ヲ待ツ。君臣ノ禮ノ如シ。其子家綱征夷大將軍ト

為ル。家光保科正之ニ遺命シ之ヲ輔ケシム。正之

學ヲ好ミテ名望アリ。封ヲ會津ニ受ク。後姓松平

ヲ賜フ。○七月。駿河ノ入由井正雪不軌ヲ謀リ誅

ニ伏ス。初正雪兵學ヲ以テ諸侯ニ遊説シ。通交極

メテ廣シ。其黨丸橋成純ト。陰ニ異圖ヲ蓄フ。家光
薨スルニ及ヒ。喪ニ乘シテ亂ヲ作サント謀ル。事
覺ル。成純擒ニ就キ。正雪駿府ニ自殺ス。連累スル
所極メテ多シ。老中松平信綱處置敏捷。事立ニ平
ク。○承應元年。三月。妖僧亂ヲ佐渡ニ作ス。擊テ
之ヲ平ク。○二年。正月。玉川ヲ江戸ニ支引シ。府下
ノ飲料ニ供ス。都民其利ニ賴ル。○三月。明僧隱元
歸化ス。徳川家綱為ニ萬福寺ヲ山城ニ勅メ。隱元
ヲ以テ主ト為ス。是ヲ黃檗ノ祖ト為ス。○三年。九
月。天皇崩ス。天皇英明剛毅。學ヲ好ミ。文ヲ善クス。

玉川上水

幕府ニ勅シテ。孔廟ヲ建テ。大學寮ヲ復セント欲
シ。又武門ノ服制ヲ改メ。烏帽素襖ヲ復スルニ意
アリ。果サスレテ崩ス。在位十一年。良仁親王立ツ。
後西院天皇ハ後水尾帝ノ第七子ナリ。○明曆三
年。正月。江戸大火。城郭第舍市街。延燒畧盡キ。死ス
ル者十萬八千餘人。焚屍ヲ埋メテ一寺ヲ創ム。回
向院ト名ク。○七月。老中酒井忠勝卒ス。忠勝樞機
ヲ典ル三十餘年。世ノ倚賴スル所ト為ル。家光嘗
テ其封ヲ増サント欲ス。忠勝辭シテ曰ク。古ヨリ
執柄ノ臣。祿厚ケレハ則驕ル。驕レハ則覆ル。臣縱

江戸大火

老中忠勝卒ス

恭謙身ヲ終フトモ。子孫禍ヲ招クナキヲ保タン
ヤト。家光嗟歎シテ止ム。○三年。正月。天皇位ヲ識
仁親王ニ傳フ。在位八年。識仁親王立ツ。

靈元天皇ハ。後水尾帝ノ第十六子ナリ。○二月。殉
死ヲ禁ス。時ニ戰國ノ餘習ヲ承ケ。諸藩其主ニ殉
スル者多シ。是ヨリ先。水戸會津ニ藩殉死ヲ禁ス。
是ニ至リ。其禁天下ニ布ク。○五年。七月。絹布ノ長
二丈六尺ヲ以テ一端ト定ム。○是月。徳川光國前
明徴士朱之瑜ヲ聘ス。初之瑜明室ヲ恢復スルニ
意アリ。屢長崎ニ來リテ援兵ヲ請フ。明亡ヲト聞

絹布ノ長
ヲ定ム
光國朱之
瑜ヲ聘ス

キ。止マリテ歸ラス。是ニ至リ。光國之ヲ聘シ。待ツ
ニ賓師ノ禮ヲ以テス。○十月。光國境内ノ新寺ヲ
毀チ。破戒ノ僧ヲ籍シテ編氓ト爲シ。併セテ淫祠
ヲ毀ツ。○七年。三月。烟草ヲ良田ニ種ウルヲ禁ス。
果レ行ハレス。○八年。三月。幕府長崎奉行ニ令シ。
紅銅ノ輸出ヲ禁セシム。○九年。六月。蝦夷ノ酋長
釋仙亂ヲ作ス。幕府松前泰廣ヲシテ之ヲ討タシ
ム。釋仙夷民ヲ驅リテ逆ヘ拒ク。泰廣討チテ之ヲ
破リ。釋仙ヲ斬ル。蝦夷平ク。○十一年。四月。幕府伊
達宗勝ヲ土佐ニ流ス。初宗勝宗藩ヲ奪ハント欲

釋仙亂ヲ
作ス

宗勝ヲ流
ス

シ。宗藩ノ宰原田宗輔等ト。其君綱宗ヲ幽シ。又其子綱村ヲ鳩セント謀ル。老臣伊達宗重之ヲ幕府ニ訴フ。宗輔對審辭塞リ。宗重ヲ訟庭ニ斫ル。衆起テテ宗輔ヲ殺ス。宗勝罪斬ニ當ル。死一等ヲ減シテ流ニ處シ。其黨數十人ヲ刑ス。○延寶元年。英吉利船長崎ニ來リ。互市ヲ請フ。許サス。○三年。四月。幕府人ヲ遣シテ。無人島ヲ檢セシム。珍禽異木ヲ得テ歸ル。○八年。五月。征夷大將軍家綱薨ス。嗣ナシ。大老酒井忠清北條義時ノ故事ニ倣ヒ。皇子ヲ請ヒテ主ト爲シ。已政ヲ專ニセント欲ス。老中堀

人ヲ遣
無人島ヲ
檢ス

田正俊執リテ不可ト爲シ。家綱ノ弟綱吉ヲ館林ヨリ迎ヘテ之ヲ立ツ。○八月。後水尾法皇崩ス。○天和二年。五月。備前守池田光政卒ス。光政學ヲ好ミ。熊澤了介ヲ擧ケ。任スルニ國政ヲ以テシ。學校ヲ建テ。孝義ヲ表シ。政績大ニ著ル。後了介幕府ニ上書シテ。政事ノ得失ヲ論ス。綱吉怒リテ之ヲ古河ニ錮ス。○七月。綱吉木下貞幹ヲ辟シテ儒官ト爲ス。貞幹善ク人材ヲ陶鑄ス。新井君美室直清等其門ニ出ツ。○貞享元年。八月。若年寄稻葉通秀大老堀田正俊ヲ幕府ニ殺ス。一座驚起チ之ヲ

了介ヲ錮
ス
貞幹ヲ辟
ス

通秀正俊
ヲ殺ス

淺草天文臺

斫ル。初綱吉立チ。酒井忠清ノ大老ヲ免シ。正俊ヲ以テ之ニ代フ。正俊權ヲ恃ミ。頗驕恣ナリ。故ニ及フ。○十二月。綱吉天文局ヲ置ク。後之ヲ淺草ニ移シテ。天文臺ト曰フ。○二年。二月。後西院上皇崩ス。○八月。幕府宗義真鳥津綱貴ニ令シテ。朝鮮琉球貿易ノ金額ヲ定メシム。○四年。三月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。在位二十四年。皇太子立ツ。東山天皇ハ。靈元帝ノ第四子ナリ。○元祿二年。六月。綱吉令シテ殺生ヲ禁ス。初綱吉嗣子ヲ求ム。僧隆光勸メテ生類ノ愛セシム。綱吉丙戌ヲ以テ生

綱吉殺生ヲ禁ム

神田學校孔廟成ル

光國碑ヲ湊川ニ建ツ

綱吉加茂ノ祭典ヲ復ス

ル。戌ハ狗ニ屬ス。故ニ狗ヲ殺ス者ハ死ニ處ス。此ヨリ禁ニ觸ル者。歳ニ數十百人。○四年。四月。神田學校孔廟成ル。綱吉自大成殿ノ三字ヲ書シテ之ヲ掲ケ。林信篤ヲ以テ大學頭ト為ス。○五年。九月。德川光國故左近衛中將兼攝津和泉河内大守楠正成ノ碑ヲ湊川ニ建ツ。題シテ嗚呼忠臣楠子ノ墓ト曰フ。○七年。四月。綱吉奏シテ加茂ノ祭典ヲ復ス。後醍醐帝ノ時ヨリ。此典ヲ廢スル三百六十年。○八年。幕府大判金小判金丁銀豆板銀ヲ改鑄ス。元字金銀是ナリ。○九年。十一月。明正上皇崩

光國薨ス
光國英明
學ヲ好ム

長矩義英
ニ傷ク

ス○十年。四月。京師所司代小笠原長重ヲ以テ老
中ト為ス。是ヨリ先所司交代毎ニ獄囚皆斬ラ
ル。長重深ク之ヲ非トシ。輕囚ヲ放チテ還ル○是
歲始メテ酒戸ニ稅ス○十三年。十二月。權中納言
德川光國薨ス。光國英明學ヲ好ミ。嘗テ名儒ヲ聘
シ。大日本史ヲ作ル。正史紀傳ノ體ヲ備フル。此ヲ
始ト為ス○十四年。三月。綱吉天使ヲ饗ス。淺野長
矩館待ノ事ヲ掌ル。吉良義英高家ヲ以テ之ニ參
ス。義英貪リテ私多シ。是日。衆中長矩ヲ辱カシム。
長矩怒リテ之ヲ傷ク。綱吉死ヲ長矩ニ賜ヒ。其邑

綱吉山陵
ヲ修ム

良雄仇ヲ
復ス

綱吉吉保
ヲ寵ス

赤穂ヲ没ス○十五年。十月。綱吉奏シテ山陵ヲ修
ム。細井知慎ノ建白ニ從フナリ○十二月。淺野長
矩ノ遺臣。大石良雄其徒四十餘人ト。夜雪ニ乘リ。
吉良義英ノ邸ヲ襲ヒテ仇ヲ復ス。明年。二月。皆死
ヲ賜フ○十六年。十一月。綱吉柳澤吉保ヲ甲斐ニ
封ス。吉保寵ヲ綱吉ニ受ケ。寒微ヨリ起リテ。諸侯
ニ列シ。老中ト為ル。權威日ニ熾ナリ○寶永元年
三月。大和川ヲ引キテ。坂浦ニ達ス。名ケテ新大和
川ト曰フ○四年。十二月。富士山焚ケ。灰砂ヲ雨ラ
ス。火滅シテ。山腹ニ一瘤ヲ生ス。名ケテ寶永山ト

富士山焚

綱吉暴ニ
免ス

曰フ○六年正月。征夷大將軍綱吉暴ニ薨ス。世子
家宣嗣ク。初綱吉數吉保ノ家ニ遊フ。吉保ノ妻姿
色アリ。其子ヲ吉里ト曰フ。綱吉之ヲ視ル已ノ子
ノ如シ。此時既ニ姪家宣ヲ養ヒ嗣ト為ス。乃吉里
ヲ封スルニ。甲斐駿河ヲ以テシ。已吉保ト其養ヲ
享ケント欲ス。夫人藤原氏其諫ムヘカラサルヲ
知リ。綱吉ヲ刺シテ自殺スト云フ。家宣乃吉保ヲ
免シ。殺生ノ禁ヲ除キ。愛狗ノ令ヲ止ム○六月。天
皇位ヲ皇太子ニ傳フ。其年崩ス。在位二十三年。皇
太子立ツ。

吉保ヲ免
シ殺生ノ
禁ヲ除ク

重秀ヲ黜
ク

中御門天皇ハ。東山帝ノ第五子ナリ○正徳元年。
三月。家宣三宅絹明室直清ヲ辟シ儒官ト為ス。新
井君美之ヲ薦ムルナリ○是歲。家宣吏ヲ草津駿
府品川三所ニ置キテ。諸侯以下駄運ノ輕重ヲ檢
シ。又驛亭ノ人馬錢旅宿錢ヲ定ム○三年。九月。家
宣勘定奉行萩原重秀ヲ黜ク。初綱吉奢侈ニシテ。
國用給セス。元祿中。重秀會計ヲ司リ。金銀貨幣ヲ
改鑄シ。雜フルニ銅錫ヲ以テス。物貨騰貴シ。商賈
行ハレス。家宣立ツニ及ヒ。府藏益乏シ。重秀多方
經費ヲ辨シテ。官等漸進ム。新井君美屢其奸ヲ彈

君美重秀
ヲ劾ス

効ス。是ニ至リ黜ケラル。○十月。征夷大將軍家宣薨ス。家宣文學ヲ好ミ。精ヲ勵マシ治ヲ圖ル。但職ニ在ル日淺ク。宿弊ヲ一洗スル能ハス。人之ヲ惜ム。其子家繼嗣ク。○是歲。幕府金銀貨ヲ改鑄シ。慶長ノ舊ニ復ス。初正徳中改鑄ニ從事ス。是ニ至リテ全ク成ル。國民大ニ喜フ。○享保元年。四月。征夷大將軍家繼薨ス。徳川吉宗紀伊ヨリ入リテ。職ヲ襲ク。○五月。老中間部詮房ヲ免ス。詮房家素寒微ナリ。家宣擢ケテ諸侯ト爲ス。家繼ノ立ツニ及ビ。遺命ヲ受ケテ之ヲ輔ク。家繼幼冲。閏闡肅ナラス。

吉宗入り
テ職ヲ襲ク

投書匱

茂卿博學
雄文

無人島ヲ
檢ス

是ニ至リ之ヲ免ス。○六年。二月。吉宗萩生茂卿ニ命レ。六諭衍義ヲ訓點セシノ之ヲ刊行ス。○八月。幕府投書匱ヲ評定所及京師大阪ニ置キ。民ヲレテ告訴セレム。時ニ大岡忠相江戸町奉行タリ。訟獄大ニ治マル。○十二年。四月。吉宗茂卿ヲ延見ス。茂卿博學雄文。命ヲ奉シ政談ヲ著シ之ヲ獻ス。其徒太宰純服部元喬山縣孝孺等。皆一時ニ著ル。○六月。小笠原貞任小笠原島ヲ檢センコトヲ請フ。之ヲ許ス。小笠原島ハ。即無人島ナリ。貞任ノ曾祖貞頼始メテ此島ニ航シ。海利ヲ收メ。名クルニ其

氏ヲ以テス。寛永中。命シテ之ヲ停ム。故ニ貞任此請アリ。○十三年。四月。吉宗日光廟ニ謁シ。遂ニ足利學校ニ如ク。學校ハ。仁壽中參議小野篁ノ勲ムル所ニシテ。後鎌倉執事上杉憲實之ヲ修メ。土田ヲ置キテ。生徒ヲ養フ。是ニ至リ。吉宗臨ミテ其藏書ヲ檢ス。○十七年。八月。靈元法皇崩ス。○十八年。西南諸國大ニ饑ウ。死スル者殆十七萬人。○十九年。四月。吉宗禮義類典ヲ獻ス。○二十年。三月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。在位二十六年。皇太子立ツ。櫻町天皇ハ。中御門帝ノ第一子ナリ。○元文二年。

西南大ニ饑ウ

四月中御門上皇崩ス。○六月幕府養生所ヲ江戸ニ設ケ。醫藥ヲ貧民ニ施ス。○寛保二年。四月。幕府青木敦書ヲシテ遺書古記ヲ索メシム。敦書嘗テ諸島穀少ク。民動モスレハ餓死スルヲ憫ミ。幕府ニ陳シテ。甘薯ヲ植エシム。甘薯初琉球ヨリ傳ハリ。西海ニ蕃殖ス。是ニ至リ。東海諸國亦之ニ倣フ。民其利ニ賴ル。○延享元年。十月。幕府甘蔗ノ苗ヲ西洋ニ徵シ。民ヲシテ之ヲ植エシム。又砂糖ノ製法ヲ受ケシム。砂糖ノ盛ニ世ニ行ハル。此ニ始マル。○二年。九月。征夷大將軍吉宗職ヲ辭ス。其子

甘薯先生

甘蔗ヲ西洋ニ徵ス

家重兼邑ヲ罷ム

家重嗣ク○十月家重老中松平兼邑ヲ罷メ其封ヲ削ル初兼邑家重ノ暗弱ヲ憂ヒ吉宗ニ勸メテ之ヲ廢シ庶子宗武ヲ立テント欲ス家重之ヲ御ム是ニ至リ罷メラル○四年五月天皇位ヲ皇太子ニ傳フ天皇聰明恭謹嘗テ議レテ新嘗祭及宇佐檀日奉幣ノ典ヲ復ス幕府之ヲ憚リ櫻町宮ヲ修メ讓位ヲ諷ス天皇之ヲ愠リ乃位ヲ傳フ在位十二年皇太子立ツ

新嘗祭ヲ復ス

越後地震

桃園天皇ハ櫻町帝ノ第三子ナリ○寛延三年四月櫻町上皇崩ス○寶曆元年四月越後地大ニ震

緡紳ヲ禁錮ス

ヒ山崩レ水溢レ死スル者一萬六千三百餘人○六月前征夷大將軍吉宗薨ス吉宗精ヲ勵マシ治ヲ求メ賢才ヲ舉ケ士氣ヲ振フ時ニ松平兼邑老中タリ機務ヲ參決シ學士室直清ヲ用キテ治道ヲ諮詢レ天下大ニ治マル故ニ徳川中興ノ主ト稱ス○五年七月朝鮮饑ヲ告ク幕府金ヲ輸シ之ヲ賑ス○八年七月權大納言徳大寺公城權大納言正親町三條公積權中納言坊城俊逸等竹内式部ヲ師トシ武ヲ講ス幕府之ヲ禁錮ス式部亦執ヘラル後之ヲ逐フ○十年四月征夷大將軍家重

職ヲ辭ス。其子家治嗣ク○十一年。六月。家重薨ス。家重多病。政ヲ聽ク少シ。故ニ近侍權ヲ弄シ。苞苴漸行ハレ。吉宗ノ業衰フ○十二年。家治第ヲ清水門ニ構ヘ。其子重好ヲ居キ。廩米十萬俵ヲ給ス。初吉宗世祿中ニ就キ。官俸増減法ヲ立ツ。其二子ヲ祿スルニ及ヒテ。復封土ヲ予ヘス。廩米十萬俵ヲ給シ。第ヲ田安一橋門ニ賜フ。是ニ至リ。家治亦其例ニ從フ。世之ヲ三卿ト稱ス○七月。天皇崩ス。在位十六年。皇姊智子内親王立ツ。後櫻町天皇ハ。櫻町帝ノ第二女ナリ○明和四年。

吉宗ノ業衰フ
廩米十萬俵

三卿

昌貞右門ヲ梟ス

四文錢ヲ鑄ル

政武善ク獄ヲ斷ス

景漸政績アリ

古今要略卷三 後櫻町後桃園

五十一

八月。幕府山縣昌貞藤井右門ヲ梟シ。竹内式部ヲ流ス。昌貞豪爽ニシテ。書ヲ讀ミ兵ニ通シ。式部右門ト交リ。常ニ皇室ノ衰替ヲ慨ク。右門劍術ヲ善クシ。其徒頗多シ。或昌貞等亂ヲ謀ルト告ク。幕府輒捕ヘテ之ヲ殺ス○五年。五月。真鍮錢ヲ鑄ル。世呼ヒテ四文錢ト曰フ○七年。六月。京師町奉行石河政武任滿チテ江戸ニ還ル。都人別ヲ惜ミ。送リテ石部ニ至ル。政武明敏ニシテ。獄ヲ決スル神ノ如シ。初京師ニ至ル。一日ニシテ累年ノ滯獄ヲ斷ス。是ヨリ先曲淵景漸大坂町奉行ニ任シ。政績アリ

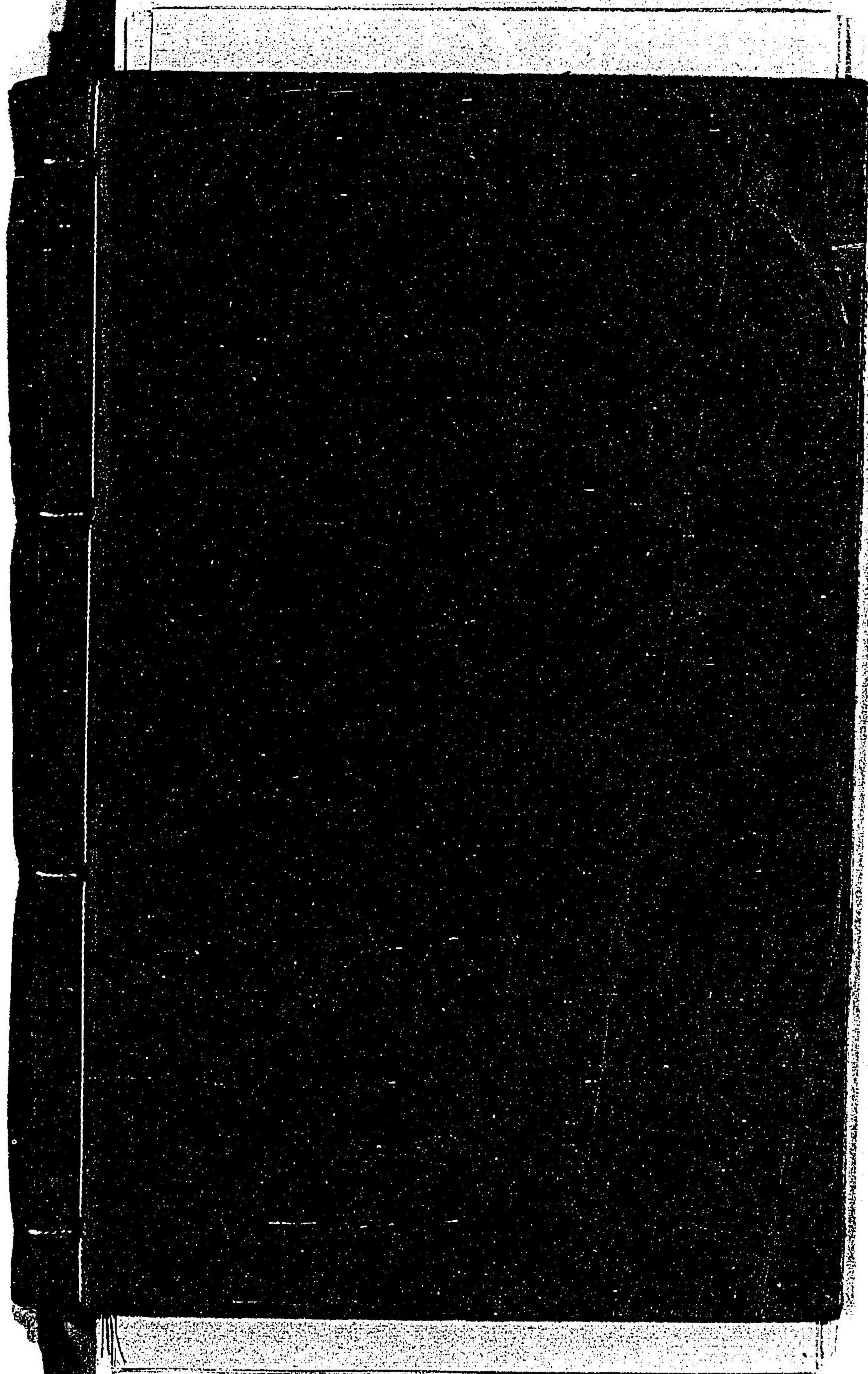
リ。政武之ト名ヲ齊クス。○十一月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。在位八年。皇太子立ツ。

後桃園天皇ハ。桃園帝ノ第一子ナリ。○安永元年。南鐐貳朱判金ヲ鑄ル。○八年。七月。老中松平武元卒ス。武元方正ニシテ。典章ニ練達シ。家治ニ敬重セラル。同僚田沼意次武元ヲ憚リ。敢テ專ニセス。武元卒シテヨリ。意次ノ威中外ニ振フ。○十一月。天皇崩ス。在位八年。典仁親王ノ子兼仁立ツ。

意次ノ威
中外ニ振

校古今紀要卷三終

田沼意次輔



210.1

Ka939k